並木中等story

令和２年10月12日号②

茨城新聞が中田先生を紹介！

昨年度茨城国体水球で活躍し，今年４月から本校に勤務されている中田萌先生が茨城新聞で紹介されました。

可能性を否定しない

祭典の続き　茨城国体から1年　④

中田　萌（並木中教校教諭）

水　球

茨城国体から正式種目に加わった水球女子。トップ級の選手をそろえた本県選抜だったが、惜しくも3位に終わった。日本代表として2014年のアジア大会で銀メダルを獲得した中田萌(29)は「期待されていた優勝も逃し、悔しさが残った」と振り返る。

三重県出身。小学3年から水球を始め、中学までは競泳と水球を並行して取り組んだ。中学卒業後は親元を離れ、名門の京都・鴨沂高、日体大と進んだ。その後、千葉・秀明大に就職し、教員を目指す学生の水泳の授業を担当した。

2017年、ジュニア時代から知る茨城国体で監督を務めた木村文明から「国体後の選手指導も含め、茨城の水球の競技力向上に貢献してほしい」と声を掛けられ、茨城の地で教員となる決断をした。

今年4月、並木中教校に配属された。教員1年目に新型コロナウイルスで休校となり、思うように授業ができずもどかしさを感じた。それでも、休校期間中は苦手な他競技の勉強や練習を行い、生徒たち向けにトレーニング動画を配信した。

水泳部の生徒からは「エネルギッシュな先生」と慕われ、授業や部活動中には中田のはきはきとした明るい声が響き渡る。生徒たちに伝えたいことは「自分の中でできない、ここまでだと可能性を否定せず、まずは挑戦してみること」と強調する。

現在も選手として母校の日体大で練習を続けている。コロナ禍で公共交通機関の利用を避けるため、練習拠点の横浜市まで自家用車を運転し、週1回通う。

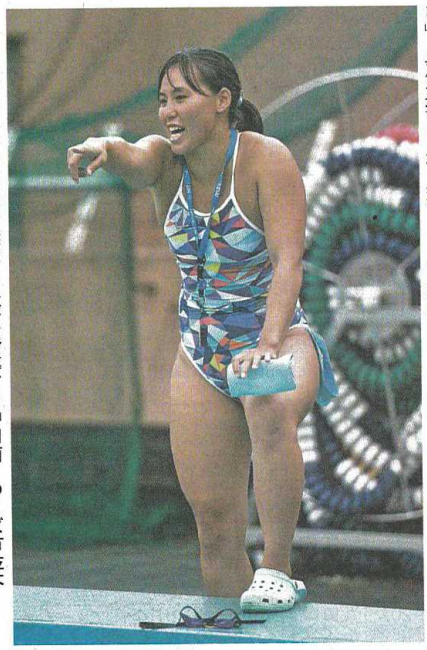
近年はけがに泣き、思う存分プレーできない日々が続く。茨城国体でもけがの影響で出場は1戦だけだった。「不完全燃焼で終わりたくない。残り少ない競技人生を全うしたい」とリハビリを続けながら練習に励む。目標は今月末に東京で開かれる日本選手権で一つでも多く勝利すること。

「失敗しても挑戦することが大事」。自身の経験を生徒たちに伝える。

（敬称略）

（関口沙弥加）

（おわり）



並木中教校水泳部で競泳と水球を指導する中田萌＝つくば市並木